

談話 3

【談話 3】NA（2 世）－NB（2 世） 31 分 54 秒

収録地点：ブラジル福島県人会会館

収録日：2012 年 3 月 10 日

話者の関係：NA と NB は県人会での知人どうし。NA のほうが年上である。談話 2、談話 4 と同じ部屋で録音したため、比較的大きめの雑音が途切れなく続く。

■ ブラジルでの生き立ち（0:00～）

NB：それだから一、まあ、おじさんが、まあ、こっちに来たとき、もう、^{はたち}二十歳のとき来てるよね。（NA：はい）それだから、まあ、小学校出て、農業の学校出てきて、（NA：あー、日本でね、あー、はいはい）こっちへね。そう。まあ、こちらのほうに来てから、いなかへ出て、で、あとで、Cotia《コチア》組合【日系人による農業協同組合】の、あれを、^{かた}方を知ってね、（NA：はいはい）そして、Cotia《コチア》組合に入りましたけどね。（NA：んー、あ、そうか、んー）それだから、まあ、全部、まあ、日本人会やら、みんなあったものは、まあ、そういう関係のほうで、集まって。けどもね、こちらの Itapecerica《地名：イタペセリカ・ダ・セーハ》【NB の出身地】のほうでは、高知県が多かったんだよね。（NA：あー、あっちのねー。はいはい）んー、高知県と熊本県と、まあ、福島県はうちだけだったんだよね。（NA：あー、そう）うちが、* * うちだけだからね。それで、まあ、あの一、お世話になってるのはね、よくお世話になって、話聞き…、あー、え、聞きましたのはね、（NA：はいはい）あの、〇〇【人名 A】さんなのよね。（NA：はい）んー、ここの、県人の〇〇【県人会の役名】やってたでしょう？（NA：はい）うん、あ、あの人の一、お母さんたちにみんなお世話になってますよね。

NA：あー、そうです*

NB：うん。それだから、あー、まあ、聞きましてね。（NA：んー）それで、まあ、Cotia《コチア》組合のほうだったからね。それで、日本人会が、こっちの Itapecerica《イタペセリカ・ダ・セーハ》のほうは多かったからね。（NA：あー、はい）それで、あの一、運動のほう、陸上のほうが、余計…

NA：盛んだった。

NB：う、うん、そうですね。{笑} んで、まあ、もう、84 年ごろね、（NA：んー）

みんな、それ、ちょびちょび無くなってしまったけどもね。(NA: んー) そ
んときは、そういうふう^{たぐ}にすね【ですね】。あー、お宅^{たぐ}のほうは？

■ ブラジルでの生い立ち／どんなことばを使うか／第二次大戦前後の話

(1:30~)

NA: もう、僕^{ぼく}はねー、やっぱり、生まれたの、ここ、Galvão Bueno 《街路名：
ガルボンブエノ》で生まれたんですけどねー、だけどー、やっぱり、もう
ちょうど戦争に入ったがら、小さいころもう、ふたつみつつかな？
Amelicanopolis 《地名：アメリカノポリス（サンパウロ市内）》のほうにね、
親父がちよっと、chácara 《別荘》持ってたもんですからね、あすこで、え
ー、15*、15 歳までね、ずっと、あの、畑仕事なんかしてね。まあ、学校
にも通ってましたけどね。あそこで、あ、んー、仕事、牛飼いだ。豚飼
いだな。にわとり飼ったり。

白: ちっと悪いんですけども、こっちと声が混ざっちゃうかもしれない…【他
のペアと声が重なるので、離れた場所を指差して】いいですか？

NB: あー、はい。あー、そうですか？

白: すいません。

NB: はい。

NA: はい。

白: あとで聞いたどぎに、
わがんなぐなっち
ゃう【笑】

NB: あー、そうですね。

NA: はい、はい。

白: ええ、すみません。

NA: はい。

【場所を少し移る】

白: リラックスしてしゃ
べって…

NB: あー、はい。

【やや遠くで白岩が「そ

【補足説明：リベルダージ地区（ガルボンブエノ）】



サンパウロ市中心部にある、ガルボンブエノ通り周辺
のリベルダージ地区は日系人街として知られる。提灯型
の街灯と大鳥居がシンボルマーク。福島県人会もふく
め、多くの日系団体がこの地区に拠点を置く。

したら、あと 30 分ぐらいしたら、また来ますから」との声】

NA：はい。まあ、そんな、あれでね。まあ、ずっと、15 ごろまでは、15 ごろまでは、あの、ほんと、ねー、あの、そういう百姓仕事みたいなことしてたからね。

NB：あー、そう。

NA：はい、はい。もう、それでー、ちょっと、戦争中ね、あそこで、す、過ごしてね、えー、まあ、だから、遊びももう、兄弟が多かったからね、ほとんど、外の人とは遊ばなかったしね。兄弟どうして、【咳】ずっと遊んでましたよね。****ですか。学校に行ったとき、初め、もう、ほんとうちで、もう日本語だけ使ってたからね。小学校は 1 年に入ったときは、もう、全然 Português 《ポルトガル語》がわからなくて、ちょうどあの、1 年生のとき、もうね、小学校入ったとき、まあ、日本人の女の子があって、彼女に手伝ってもらって、翻訳してもらってね、勉強してね、****、sondakedemo、すると慣れてしまってたね。もう、すぐ Português 《ポルトガル語》覚えてから、ねー、あとはもう、苦労しませんでしたよね。

NB：あー、そうです*。

NA：ええ。そんなあれで。えー、ほれだと、はじめのころは、やっぱりね、日本語だけだったから、(NB：あー) その点はちょっとね、苦労したつつた…【つつたって】、子どものころだから、(NB：んー、わからない) 苦労したとはわからない。ただね、ポンポン覚えてったからね。(NB：んー、そうよねー) 学校でね。えー。そんなで、ん、そしてから、あれ、戦争が終わったからっていうんで、まあ、それから、まあ、また Ga... 【咳】 Galvão Bueno 《ガルボンブエノ》のほうに出てきて、ねー、親父があんときは、まだ、戦争のあとで、まだ、ちょっとんー、許可が出てなかったから pensão 《下宿屋》みたいなこと***ね。(NB：んー) だから、pensão 《下宿屋》のあれはね、自分らは、りゅう…、まあ、学生の novo 《若いの》でしたからね。お、奥地から出てきたね。そんなあれで、それでー、そんな ajuda 《手伝い》してましたね。そんなときも、中学校入って、中学校でね、勉強してましたけどね、えー、***で、*、そしてから、まあ、そごで、ま、親父が学校建て直したんですよ。Galvão Bueno 《ガルボンブエノ》の家出て、んー、Santana 《サンタナ》のほうに移ってね (NB：あー) あそこで、高等【高校】

とかね、大学を、お、終わりましたけどね。(NB: んー) {咳} 終わってからすぐに、また、銀行に働きはじめてからねー、ずっと、もう、ね、*、aposentos 《住まい》も、まあ、リタイアするまではね、(NB: あー、はい) ずっと銀行でね、んー、90 年初めまでねー、働いてましたね。ええ。まあ、そのねー、家族や友人の仕事のことばってというのは、えー、まあ、ほとんどまあ、標準日本語だったからねー、そんなことはねー、まあ、感じなかったねー。普通にしゃべった**。

NB: あー、そうですか。

NA: はい、だけど、^{ともだつ}友達んなかにずいぶんと、日本語の分からんの、おったからねー。まあ、戦争でー、日本語覚える機会がなかったからねー【戦時中ブラジル国内では日本語は敵国語として教育が禁止された】。(NB: あー) そんなあれでー。今もう、Português 《ポルトガル語》ってもねー、まあ、わかる人とは、まあ、混ぜてね、日本語と、(NB: あー、はい) Português 《ポルトガル語》混ぜてしゃべったりしてましたよね。(NB: あー) はい。{咳払い} えー、だけど、ことばで、だから Português 《ポルトガル語》とか日本語で、苦労したっつーことは、ねー、全然ねー、覚えがありませんね。

NB: んー、なかったです*。

あー、そうですか。

NA: ええ、はい。ま、そんなことだ。ええ。

【補足説明：第二次大戦とブラジルの日本語】

第二次大戦でブラジルはアメリカ側についたため、日本とは敵どうしになった。そのため、ブラジル国内では、日本語の教育や日本語による本・新聞の出版が禁止された。この時代の苦難は、現在も語り継がれている。

■ ブラジルでの生き立ち／日本語学習の話／日系団体の話 (6:05～)

NB: ま、うちのほうは、戦争は、^{あと}後生まれだからね、全然 {笑} (NA: あー、そうそう、はいはい) それだから、まあ、あの一、日本語はね、あの一、いなかにあるとね、(NA: はい) あ、学校っちゅうものは、なかったんですよ。(NA: あー、はい) それだから、まあ、Cotia 《コチア》組合がね、あの一、日本人会っていうのを作ってね、(NA: はいはい) あー、あ、あちらこちらね。(NA: んー) そしてー、その日本人会ってというのが、まあ、先生というものを頼んだのが**、(NA: はい) その先生っていうのは、早く^ゆ言えば、ほんとの先生じゃないもんね。(NA: んー) まあ、日本語よく知

談話 3

って、ねえ、まあ、子どもに教えるぐらい、の、ものが、まあ、先生だっていてね、(NA: はいはい) まあ、僕たちは、もう、むつつからね、その一、日本学校というくりにいましたけどもね、まあ、だけどあの一、小さいときはね、まあ、みんな、あの一、家族だったからね、(NA: はいはい) それだから、あのまあ、ちょっと一、外人っていう人とは、つきあってしま…、つきあわな、なかったからね。

NA: 僕も同じです。ええ。

NB: うん。うん、うん。それだから、日本語ばっかりだったのね。その日本語が、まあ、あの一、よく、話しますけどもね、まあ、福島県っていうまでは行かなかったのよね。(NA: はいはい) どういうわけというとなー、あの一、その、日本人会というのはね、まあ、あの一、福島県じゃないからね、まあ、高知県が、よ、たくさんいたしー、熊本県もおったしね、あの一、えーと、あ {間} えー、あっち、あっちの、あの、あの、熊本と、(NA: はいはい) えー、ね、あー、が、おったから、たくさんね、それだから、ま、ことばづかいが、まあ、どれがどれかは、わからなかったけどもね、(NA: はいはい) まあ、僕たちはね、子どもたちはね、* *、まあ、日本学校はねー、まあ、東京の使うことばっていうのを教えよったからね。

NA: あ、標準語ですよ。あー。

NB: あー、うん。そういう、感じだったからね。(NA: はい) それだから、あの一、あの、この文化がね、んー、本を、日本の本ね、(NA: はいはい) 帳面よね。帳面じゃない。本よね。(NA: 本) あの、^{まき}巻 1、2、…9 まで? 12 までありましたよね。(NA: はいはい) 12 が確かー、ここにあったらー。

NA: 最高…

NB: うん。最高の… しょ、小学校 * …まで行かないね。小学校まで行かないよね。あれ。

NA: あれ、中学校まででしょ?

NB: でしょ…でしょうかね。

NA: うん。中学…

NB: まあ、それが、まあ、やって。まあ、それでー、あの、日本語を教え * たのね。(NA: はいはい) まあ、か、「書く」と「読む」だけね。(NA: うんうん) それであの一、そのほかはできなかったからね。(NA: はい) 週に 2 回

しか**かったからね、学校がね。それで一、半日だったでしょ。**、
あ、あとの半日は Português 《ポルトガル語》の学校行かな**、いかな
かったからね。それで、そういうふうので、まあ、まあ、僕が、^{まき}巻10は、
お、終わったけども、11は終わらなかったからね。(NA: はい) うん。そ、
それまで**

NA: まあ、それじゃ、ずいぶんいってますよね。

NB: うん。まあ、平均にすると、あ、先生に^い言われるとね一、まあ、「平均よ
り…以上行ってます」って聞きましたけどもね。(NA: ええ、そう**) *、
でも、勉強するあいだはね、あ、子どもだから、子どもは子どもだから、
まあ、必要なことで勉強してるんじゃないくて、まあ、父たちが、「勉強**、
**、読めな一。^{はなし}話^ゆせえ」なんて言って、やりよったからね。

NA: はいはい。

■ 仕事の話／どんなことばを使うか (9:15～)

NB: だけでもね、あの一、あの一、大学**、卒業してからね、あの一、日本
と関係ある会社に、はたら、…と働きましたからね。(NA: あ一、そう) う
ん。あ、僕はあ、会社持ってますからね。(NA: はいはい) あの一、81
年からね。(NA: はいはい) それで、まあ、そういう会社

NA: あ、けん…

NB: うん。

NA: 建設会社**。

NB: うん。そ…、あ、あつて。まあ、そのときに、だいぶん苦労しましたね。(NA:
あ一、はい) {笑} ど、どういう…

NA: 日本から来た…ね。

NB: **、来た人たちとね、あの一、話わかるのね、ことばわかるの、まあ、
あの一、ちょっとしたら*、あの一、建築のほうでしょ? (NA: あ一、は
いはい) それ、そういうことばね一、それ、建築の使ってることばが…

NA: 専門**

NB: うん、専門のね一、

NA: ことば…

NB: ことばが、ほんとにだいぶん、苦労しましたね。

談話 3

NA : はい、はい。

NB : だけでもね、あちらのほうも、知ったからね。

NA : はい、はい。

NB : * * *、わかつとったんでしょね。

NA : うん。

NB : それだから、まあ、ちょっと、英語も使いましたかね。(NA : はい、はい)
ね、それでー、うん、だいぶん [笑] 簡単になりましたけどね。うん。

NA : あー、まあ、いい。そういうことは、ほんと、日本でもね、随分とそういう、英語も、やっぱ混ぜてるんでしょね。はい。

NB : いや、混ぜてるね。だけでも、まあ、そういうふうのは、ほんとに [笑]

■ ブラジルでの生い立ち／日本語学習の話／日系団体の話 (10:30～)

NA : ほいで、〇〇【NB の名前】さんの小学校はどごで、勉強されたんですか？

NB : あの一、大学は……

NA : * * *、んー、小学校は。

NB : いや、えーと、その小学校っていうのはねー

NA : んー、どごだった…

NB : あの一、* * * *、あの一、Co, Cotia 《コチア》組合ではね、(NA : んー)
日本人会の、* * * が、部落があつてね。

NA : その、まあ、そご、どごだったの。街。* * *

NB : あ、Capão Redondo 《地名：カポン・ヘドンド》。

NA : Capão Redondo 《カ
ポン・ヘドンド》。

NB : うん。

NA : Ai 《うん》。ふーん。

NB : うん。それで、まあ、

【補足説明：この会話部分の地名】

この箇所ではカポン・ヘドンド (Capão Redondo) を皮切りに、様々な地名が列挙されているが、いずれもサンパウロ市内および近郊の地名である。サンパウロ市周辺には多くの日系人が住んでいる。

こちらの一、人らね。Cotia 《コチア》組合はねー、(NA : はいはい) あの一、あの一、…は…

NA : 本部がPinheiros 《地名：ピニエイロス》にあった* * *。

NB : うん。Pinheiros 《ピニエイロス》ですね。(NA : はいはい) だけでもね、あの一、百姓の、あの一、部落あるでしょ？ (NA : はいはい) その、か、

百姓の部落のところで、日本学校やりました* * (NA: あー、*) それだから、まあ、Parelheiros 《地名: パレリエイロス》、Casa Grange 《地名: カーザグランジ》ね、(NA: うーん) Embura 《地名: エンブーラ》あの一、え一、Cipó 《地名: シポー》ね。

NA: あー、Cipó 《シポー》。はいはい。

NB: うん、はい。あの、Colonia 《移住地》、ねー。(NA: んー) それで、そうやって、こちらのほうでは、* * * * 【地名のようだが不明】ちゅってから、昔は* * * * 【地名のようだが不明】って、^ゆ言いましたよね。そして、こちらのほうへ行って、Capão Redondo 《カポン・ヘドンド》が、まあ、最後の、* *、Itararé 《地名: イタラレー》は、ま、もうちょっと奥のほうだった*ね。(NA: あー、うん) ねー、それで、Capão Redondo 《カポン・ヘドンド》が、まあ、São Paulo 《サンパウロ》の Santo Amaro 《地名: サント・アマーロ》のほうだったかね。(NA: あー、そう。はいはい) うん。それで、そこにおいて、Santo Amaro 《サント・アマーロ》にも日本人会がありましたよね。(NA: あー、はい) けども、あの一、百姓の、あ、日本人会じゃない。ただの日本人会。(NA: * * *) * *、あの一、Cotia 《コチア》組合員たちはね、あの、ふたつの会に入っとったんだよね。日本人会っていうのと、と、(NA: あー、はい) そして、あの一、Cotia 《コチア》組合。(NA: うん、組合…) * *ね。それで、その一、日本語を教えるのは、その日本人会。*、けども、僕たちおったとこやら、あの一、Santo Amaro 《サント・アマーロ》と Represa 《地名: ヘプレーザ》、(NA: はいはい) 違いは、もう、みんないなかだったからね。(NA: うん。そう。あんときはね) それだから、Cotia 《コチア》組合、Cotia 《コチア》組合に入っとったからね。(NA: はいはい) それだから一、子どもたちには「Cotia 《コチア》組合がやってる」っていう感じにしましたけども、ほんと^ゆと云えば、日本人会。(NA: あー、そごのね) うん。それで、あー、今、Santo Amaro 《サント・アマーロ》やら、Represa 《地名: ヘプレーザ》までやってる、あれ、やってますよね。(NA: はいはい) で、今は、あの、文化と一緒にやってますからね。(NA: はい) まあ、ちょっとー。

NA: あそこに、日本学校があるんでしょ? なんか* *

NB: うん、い、いちおう、今、あります*。あの、昭和【学校の名前か】ね。

談話 3

NA : 昭和、あー。

NB : うん。昭和やら、日本学校行ってますよね。

NA : うん。

NB : それだから、まあ、僕は、僕はあちらのほうから来てますのよね。

NA : あー。

NB : うん。それだから、まあ、ちょっとしたら、あー、連合のほうなんだよね。

NA : はいはい。

NB : うん。そしてー、まあ、けども、僕はもう、あの、連合のほうは、あの一、この、その、どういうのかな。出身となんにも関係ないからね。***、日本人会は、みんな、混じりだからね。(NA : うん。そう**) うん。それだから、

NA : 全部入ってるからね。

NB : 全部入ってますからね。それだから、まあ、あの一、その一、親父のほうの、あれをちょっと、「なにか、せんといかんなー」と思ってから、(NA : あー) こっち【県人会のことか】に来ました**ねー。***から、まあ、日本人会では、青年会もありましたからね。(NA : うん) で、青年会は僕やって*たとき、78 年ごろはねー、(NA : はい) まあ、2500 人ぐらい、お、いましたからね。

NA : 当時は盛んでしたからねー。

NB : うん。あちこち、あったからね。(NA : はい。はい) そしてー、日本人会は、まあ、この、あの一、おおかた、^{いっせんにひゃく}1 2 0 0 …、^{いっせんごひゃく}1 5 0 0 人、お、あったからねー。(NA : **) おった、おったね。で、まあ、そういうふうで、まあ、**、結婚してからね、まあ、そちらのほうはちょっともう、ほったらかしにする、してから… {笑}

NA : 家庭のほう大事ですからね。

■ 仕事の話 (13:50~)

NB : うん。それで、まあ、けども、その間は、あの一、僕は、あれ、建築でしょ？(NA : んー) だからその、け、建築のほうも、あれをやって、ま、たくさんやってますのよね。(NA : はいはい) その一、engenheiro 《技術者》の…

NA : * * 仕事…

NB : ん、não 《いや》、仕事じゃない。あの、えー、engenheiro 《技術者》の一、
まあ…

NA : projeto 《計画》？

NB : えー、*、どういった*、えー、どうや…、何やっていいか、何やってい
かないかね、(NA : はい) その、conce, conselho 《委員会》ちゅーのがある
でしょ？

NA : あー、conce... はい。

NB : うん、その、こ、* * * *の一、あれ、やとったからね。* *、instituto
de engenharia 《工学技術の協会》の、あれ、やとったからね。

NA : おー。

■ 日系団体の話 (14:30～)

NB : うん。それだから、まあ、日本人と関係ないから、{笑} (NA : いやいやい
や) それだから、まあ、親、おじさんに言われた*。父【「祖父」の言い間
違いか】はもう、亡くなって15年なりますからね。父は生きてますけども、
えー、Cotia 《コチア (コチア組合)》行って、あの一、「福島【県人会】行
ってから、なにかやってこい」って言われた {笑} (NA : あー {笑} はいは
い) * * *、あの一、父の一、やとったわけね。父は、62年かな、(NA :
はい) あの一、ここの一、入って*たんだよね。福島県人の、そして、あ
の、* * * 【carteira 《会員証》とも聞こえる】持ってるのよね。{笑}

NA : ふーん {間} 僕の、親父もねー、ほいで、やっぱり* * *、はしめ、初め
っからねー、(NB : やってる* *) や、役員もやりましたよねー。まあ、
親父はあの一、* *、筆ができたし、(NB : あー) 書くことが上手だったか
らね、会報とかそんなの、みんなね、彼がまとめてね、いや、出してく
れたよね。(NB : あー) はい。昔は今みたいな computador 《コンピューター》
もないしねー。(NB : * * * *) 全部手書きでねー、(NB : そうよねー) 会
報なんかねー。あとんなくて、ね、(NB : そうよねー) あー、* * * * *ね、
*、impressão 《印刷》ね、(NB : んー) なってね。だ、出すようになった
、ね、あー、今は、 * *、computador 《コンピューター》でパーッと。

NB : * * * * *、みんなやってますからね。

談話 3

NA : * * * ね、* * * *、便利になってね。

NB : 便利ですか？

NA : 便利ですね。

NB : けど一、日本語忘れるよ。

NA : ん、んー。

NB : やらなかったら…

NA : 書くのがね、書くのが忘れる。

NB : うん。書くの、忘れるね。

NA : なかなか、えー、それはちょっとね、問題ですね。

NB : うん。問題ねー。

NA : んー。

■ 今の若い日系人について／どんなことばを使うか (15:55～)

NA : ま、こう、今、今、でもね、僕が考えるのはね、まあ、ま、ブラジルだけじゃないよね。全国なんだよね、それは。(NA : うん) まあ、ほんとに、今の、まあ、僕は子どももいますけどもね、(NA : うん) * * * *、考えが違うのはですね、(NA : あー、ねー) 全然違うねー。

NA : うーん。ま、3 世んなったらもう、こっちのね、考えが多い…【3 世はこっち (ブラジル) 流の考え方になることが多い】、* * *

NB : うん。だけどもね、まあ、僕の、お、弟たちも、まあ 2 世だけどもね、みな。(NA : はい) けど、もう日本語はなんにもやらないよ。(NA : Ai 《おー》) あの一、読みもしないし、しゃべりもしないね。

NA : あ、そう。

NB : もう、うん。うちの、母生きてる間はね、もうみんな、まあ、母が Português 《ポルトガル語》 知らなか… * *、* * なかったのね。(NA : あー) それから、ひどいもんだよ。だから…

■ ブラジル社会のよいところ・悪いところ (16:50～)

NA : まあ、いろいろありますよね。それはね、{間} ええ。* * * * * {咳} ま、まあ、ブラジルの暮らしについてはね、どういう、ね、やっぱりね、ちょっと今んところは、前はよがったんです * *、治安の問題すね【です

ね】。Segurança 《治安》ね。(NB: うん) ねー、**たら、んー、ね、ちょっとやっぱり、まあ、ね。心配ですね。

NB: うーん。

■ 今の日本社会の悪いところ (17:20～)

NA: 【調査者の用意した話題表を見て】今の、この、「ブラジルから見た今の日本とはどうか」っちゅうのはね、どう思いますか。

NB: まあ、僕はねー、まあ、昔から、ま、べ、勉強してる時からね、(NA: んー) よく言ってますのよね。まあ、僕はまあ、アメリカを好きじゃないっていうわけではないんだよね。けども、僕はあの一、もう、今よく、言いますけどもね、Capitalismo 《資本主義》っていうのが、僕は、嫌いなんだよね。(NA: あー、a ham 《うん》) それから、だから、あれ、僕、^{ひとつ}頃、それ言ってから、まあ、殴るまではいかなかったけどもね、(NA: Ai. 《あー、そう》) {笑} うん、日本人に、おー、言われたときあるんだよね。(NA: Ai 《おー》) まあ、僕が話したときはね、まあ、「日本は、戦争負けて、ねー、それから、してから、いちばんの、あの、まあ、えー、Colonia 《植民地》になってしまった」つつったんだよね。(NA: あー) の、「アメリカの Colonia 《植民地》になってしもうた」***。*****から、まあ、アジアのほうで見るとね、日本が、アメリカがいちばん先に入ったの日本ですね。

NA: そうよね。

NB: ね。それで、日本へ、なんでも、振り回したね。

NA: うん。まあ、戦争負けたから…

NB: {笑} ね? なんでも、ツケまわして、(NA: はい) なんでも、押し込んだでしょ? (NA: はい) ね? それだから、あそこ、日本から、今度、全部、あとはまあ、支那がいちばん最後だったけどもね、あと、あれから ^{ひら}開いたんですからね、(NA: はい) それだから、まあ、よく考えるとね、まあ、な、それ、「良かったでしょう」つって、「良かったでしょうか」っていうのよね。(NA: まあ、ねー) その、金持ちに、日本人で、日本で金持ちになったのはたくさんいますけども、けども、「みんながなったんでしょうか」つていうのが…

談話 3

NA : あー、それはね、(NB : んー) どこでも、世界中ね (NB : んー) あー、もう、その、その、差っちゅうかね、diferença 《差》 ね、(NB : うん、うんうん) それはありますよね。

NB : それで、まあ、その、日本で、まあ、あの一、アメリカが、**ましたでしょ？ (NA : はい) で、まあ、いちばん、僕はね、もう、いちばん問題なものね、あの、家族がねー、いちばん問題なのは、癌なんだよね。(NA : あー) 癌のもとが、まあ、全部が、{笑} みんな、****、知りません**ね。それだから、まあ、僕の考えではね、まあ、えー、先生と^{はなし}話したりしてね、(NA : んー) まあ、食べ物が、よく、それに、なんと、assento 《基本》 っていうのは、食べ物なのね。(NA : はい) 生活…病なんだよね。それが、あの…

NA : 関係する。

NB : うん、「関係する」つうのね、そう。それで、今、30 年たつよね、もう。(NA : うん) 30 何年たちますよね。その一、それが、僕話し***。まあ、今よく考えると、アメリカがいいもの、いいもの、***ね。あの一、マクド【マクドナルド(ブラジルではマクドと略すことはない)】の sanduíche 《ハンバーガー》 でしょ？ まあ、アメリ…**、アメリカ人はみんな、肥えて、ね、みんな、ここでいうと、obeso 《でぶ》 よね。

NA : obeso 《でぶ》、ね、太りすぎ**

NB : うん、obeso 《でぶ》 ね、うん、肥え***ね。まあ、日本も、いま、あんまり変わらないのよ。(NA : はい) ねー。あの、いなかの人になるとね、そうじゃないけども、まあ、よく、テレビと、NHK と、見る…見てみるとね、あの一、東京、京都、^{おおさか}大阪【ポルトガル語では Osaka を「オーザカ」と発音するのでその影響か】ね、まあ、大きい街なんていうとね、(NA : はいはい) その、そういう、tipo 《タイプ》、あの、タイプの、店があるとね、まあ、子どもたちやら、まあ、青年よね。まあ、みんな、アメリカ人と似た、似たよ…ものになってきてるんだよね。(NA : はいはい) それで、まあ、それくらべると、まあまあ、そういうのは、まあ、その人が、まあ、動かない、運動せん。「なんでせん」っていう、(NA : そう) まあ、そういう話まで、まあ、そうだかもわからないけどもね、まあ、考えは、みんな、^{かね}金の***だからね。(NA : うーん) まあ、そういう、運動したり、そういうも

の、もう、せん《しない》もんね。***

NA: そうよね。まあ、今は特に、なんちゅうかね、んー、えー、computador 《コンピューター》ねー、(NB: うん、それだからねー、んー) それねー、でも、ほんとは、^{いちんちじゅう}一日中ねー、なんか、して、んー、ねー、向き合ってるから、ほんとは、どうしてもねー、(NB: ***) 運動不足んなるわけ**。
えー。

NB: 運動…、そうよね。それ見るとね、あの一、今は、あの一、支那のほうのね、(NA: んー) あー、あれ、あの、香港**、あの一、北京ね、(NA: 北京) 見るとね、うん、青年が^{おんな}同じになってきたね。

NA: そうでしょ？

NB: うん。(NA: んー) みんなもう、肥え、**、肥えでき、きたね。

NA: まあ、太りすぎてるね。食べすぎで。

NB: うん。うん。食べ、nǎo 《いや》、食べ物が違うのよ。

NA: *、そうよね、やっぱり。こっちの、西洋式んなってるのよね。

NB: うん。そうよね。

NA: 油っこいもんとかね、からい【「塩辛い」の意味か】のね。

NB: うん、nǎo 《いや》、その、油っこい、からいものはね、まあ、あの一、ちょっ…、あー、支那ではよく食べてるのよ。それ、昔から食べてる*ね。(NA: うーん) それで、肥えないんだからね。だから、今、こういう、した、油…、*、ほんと、たくさん油****、あー、たぶん、食べて、揚げ物食べて、その**、あの一、支那人はね、揚げ物たくさん食べますのよ。

NA: うん、たくさん、油っこいもんね。

NB: けども、肥えでないでしょ？ ね？ 運動しますからね、毎朝、Taichichuan 《太極拳》やったりなんか、するでしょ？ と、今の青年たち、やらないもんね、それ。

NA: うん、日本は、あの、あっちでもね。

NB: うん。nǎo 《いや》、支那でもね。

NA: 支那でも、えー。

NB: 外国のよね。そうですね。

NA: もうひとつは、あの一、今、支那では、なんちゅうか、ひとりっ子っていうでしょ？ (NB: そうよね) ひとりだけ。だからもう、年と、特におとの、

男の子がね、(NB:****) 大事にされるっていうんでしょうね。(NB: うん。そうよね) だからもう、その男の子もね、もう、あー、カヤホヤ【「ちやほや」の意か】されてね、(NB: うん、そうよね) 甘やかされてね、(NB: そうよね) だからもう、そういうふうなってきたらね、あんまり、仕事も、し、ねー、

NB: しないね。{笑}

NA: なんだかねー、ちょっと、怠け者みたいになっちゃってんでしょうね。

NB: そうよ*。

NA: うーん。まあ。まあ、僕としてはね、今はね、日本…ね、今のに…、僕* 個人のあれですけどねー、今の日本の政治家も、うー、ちょっとがっかりしてますよね。

NB: がっかりするねー。

NA: うん、今の政治家は、日本…、まあ、(NB: {笑}) そ、あれはほんと、もう、なんかねー、あー、駄目ですよ。(NB: 僕、僕) 自分の、ねー、あれ、なんつうかねー、うん。えー、お膝ばかり見てるっちゅうんですけどね、(NB: そうよ) *** ことばかり聞いてね、(NB: そうよね) ねー、ほかの、ねー、その、外国のことなんかね、ほとんど知らないし、(NB: うん) 知ろうともしないし、ねー、(NB: そうよね) その、やっぱり、ねー、ほんと、もう少しね、えー、広いね、考えが持ってる、んー、世界にむけたらね、いいと思うんです**ね。僕はあの、最近ね、あの、だいぶ前からだけど、あの、えー、京都のね、〇〇【大学名】っていう大学があるのね、京都にね。そこの先生と、し、知り合ってるね、知り合ってるね、知り合ってるね、いろいろ、ときどき聞くね、{咳} あの一、お世話なんかしてますけどね、先生こっち来られたらね、(NB: うん) 必ず案内したりして、して、いろんな話聞くんですけど、その先生が言うには、「今の、日本の男の子は駄目だ」って^ゆってましたね。

NB: あー、そうですか。

NA: 男の子ね。(NB: うん) おそらく今、甘やかされて育ってるせい。もうひとつの問題は^ず今、日本で言うあの、どこまで行ってるか知らんけど、ゆとり教育っていうのがあるんですよ。ゆとり教育っちゅうのは、子どもを教えるのに、その、無理をして、お、いろんなことしちゃいけないって

うのね、(NB: そうよね) そんな、* * 甘やかした教育なんですよ。だからね、それであの、{咳} 今の日本の教育のレベルも下がってるつつうんですよ。だから、今、だからね、もう、そして、そして、もうひとつは、あの、えー、何つうかね、大学でね、出てからね、あんまり外国で勉強しようつつうのはね、(NB: うーん) 今はもう、{咳} あの、たった、全体のが、男の学…、2 割しかいないっちゃうんですよ。前は 8 割ぐらいおったちゅうのよね。(NB: あーあー、はいはい) 今は 2 割ぐらい* ね。(NB: あー) そんなにあの、気力がないっていうんですよ。(NB: そう) いわゆる、ここ、にほ、日本語でいう、えー、{咳} あー、ゆとり教育っちゃうんだげど、その、なんちゅったって、そういうあれでね、事なかれ主義っちゃうんだけどね、(NB: んー) あの一、ね、{咳}

NB: 【NA が咳き込むのを見て】水、水…

NA: * *, すいません。{咳}

NB: 水がいいでしょう。

NA: すみません。

【水を飲む】

NA: それで、なるべくね、自分が* *, 問題んならんようにね、(NB: んー) そんなあれでね、過ごしてるからね。だから結局は、あれですよ、聞いた* * では、支那なんかもう、何千人ちゅうかよ、アメリカの大学に留学させてるんですけどね (NB: んー)、今の日本は、ほんと減っちゃってね、ほとんど、ねー、おらんつつってましたよね。

NB: そうよね。

NA: {咳} そういう、計画*、教育のレベルがね、下がっちゃってるからね、ちょっと心配ですよ。(NB: そうよね) そして、そういう政治家もね、こんなもう、自分のことばかり考えてる… (NB: {笑}) 駄目ですよ。(NB: うん、そうよね) そ、私の個人の…考えですけどね。{間} まあ、ま、そちらもそうでしょうからね。

NB: そうよね。

■ 日本のテレビや本の話／東日本大震災の話 (26:55～)

NA: そちらも、あの、日本のテレビ、み、NHK 見てるんでしょ？

談話 3

NB：あー、はい。見てますねー。

NA：僕も毎日見てますよね。

NB：うん。そうよね。

NA：うん。6時… {咳} 6時のね、こっちの6時の時間、午後の6時、まあ、日本の朝の6時だけだね【日本とブラジルの時差は12時間】、(NB：そうよね、はい) それ、よく見てますよね。(NB：んー) んー。そんなことで、まあ、これ、地震のことについて、ね、(NB：はい) ま、そういうことでね、いろんな…ことはね、聞いてます、見てますよね。

NB：まあ、見てますね。

NA：テレビでね、はい。えー。

NB：けどもね、あの、まあ、テレビはテレビだからね。{笑}

NA：それはね。

NB：それだから、まあ、んー、まあ、ひどいとも見せるけどもね、あー。

NA：みんながんばってますけどね。

NB：んー、がんばってますけども、まあ。(NA：**、えー) それが、まあ、まあ、日本人だからだっていうことじゃないけどもね、(NA：ええ) まあ、ブラジル人やアメリカ人じゃないから、だからじゃないけどもね、(NA：あー) ま、どこまでね、本当のことは見せてるっていうことが、まあ、問題、まあ、こちらがねー、****

NA：あー、それ、それはあり、あるでしょうね。はい。

■ 東日本大震災の話／日本にいる親戚の話 (28:00～)

NB：それだからまあ、僕たちはまだ【福島に】親戚いますけどもね、まあ、あの、

NA：んー、んー、僕らも。

NB：はい。けども、あ、あー、いとこ、まあ、いところになりますよね。(NA：うん) …は、まあ、みんな、あそこ【避難区域】から出ましたからね、(NA：そう) うん、その、その、あの、あれの、う…

NA：地域ね、まあ、震災のあれね。

NB：うん。にね、2年、2年後までは、まあ、そこに戻ってはいけないっていう、(NA：あー) あれだからね、だから、まあ、ひと家族は、まあ、「ブラジル

に来るかな」って、まあ、2、2、2 回ぐらい電話しましたがね。(NA : Ai 《お一》) うん。まあ、だけでもそうでしょうね。まあ、だ、えー、まあ、僕のいここになりますけどもね、(NA : はいはい) まあ、百姓やってる人は、ひとりしかいませんけどもね、やっと思った人はね、あとはもう…

NA : 都会 * *。

NB : あー、違う。

NA : 仕事…

NB : 仕事し、まあ、やってますけども、まあ、だけでも、自分のふるさとで、{笑} ねー、(NA : んー) んー、…に、おれないっていうことは、つらいみたいらしいね。

NA : つらいですよ。そうですよね。

NB : まあ、僕はブラジルでもね、ブラジル 2 世だけでも、ブラジル生まれで、今住んでる所で生まれたんだからね。(NA : はいはい) うん、それだから、まあ、そういう、まあ、僕のふるさとになりますけどもね、(NA : はい) ねー、それだから、そういう考え、頭に来るのよね。まあ、ここに住んでいけんのじゃない、「駄目だ」って言われると、ねー、(NA : {笑}) どういう考えになるっていうことね、(NA : * *) まあ、その、その場所があって、(NA : んー) 「そこへ住んでいかない」って * *、(NA : * *) ねー、言われると、どういう考えになる、どんな気持ちになるっていうのが、(NA : はい) まあ、僕は考えますのよね。

NA : それはあるよね。

NB : ね、それだから…

NA : えー、まあ、僕ら、ねー、まあ、会津のほうだからね、えー、あー、そういうね、みんな、無事でしたよね。(NB : んー) ねー、で、ただ、あっちの、あっちのほうも、地震でずいぶん揺れた^ゆって言ってましたよね。(NB : あー、はい) だけど、そういう、原発のね、(NB : んー、はい) あれは、ね、おかげさまでね、

NB : なかったね。

NA : なかったんで。まあ、それで今も、みんなね、えー、落ち着いてますよね。

(NB : あー) あっちのほうはね。

NB : あー、それはいいよね。いいですね。

NA : だからもう、僕もこういうふうだね、あー、*、連絡をとったがつつう*
* * ね、まあ、その、僕も、ね、とり、とりましたね。えー、すぐとれる
ね。(NB : うん) 連絡できましたよね。(NB : うん) ほいでまあ、あっちの
ほうは、ね、会津のほうはだいじょぶだってね、言われたからね。

NB : まあ、うちはねー、あの、電話じゃなくて、あの、e-mail 《電子メール (ポ
ルトガル語読みの発音)》でね、* * * *、それだから、まあ、

NA : あ、e-mail 《電子メール (ポルトガル語読みの発音)》、あー、それが通じ
ましたか。

NB : うん、通じましたけども、まあ、あとからなんぼ…2 週間ぐらいかかりまし
たね。あっちがら、あっちが返事するまで。

NA : あー、ね、やっぱりね。

NB : うん、それまでゴタゴタだったんでしょうね。

NA : そうでしょうね。たい、大変だったからね。

NB : うん。うん。大変だったんだよね。

NA : あー、んー、まあ、僕ら、だから、電話ですぐ連絡できてからよかった、
うん。

【ほかの協力者が「それじゃあ、お先に失礼します」と帰る声。ここから、パ
ックの声が大きくなり、聞き取りにくくなる】

【補足説明：東日本大震災とブラジル日系社会】

東日本大震災のニュースはブラジル日系社会にも大きな衝撃を与えた。多くの日系人・日系団体が日本への義援金を送っている。

写真はこの談話を収録した翌日の 2012 年 3 月 11 日にサンパウロ・リベルダーヂ地区のブラジル日本文化福祉協会でおこなわれた、犠牲者の一周忌法要・復興祈願の式典の様子。



【談話 4】NC（2 世）—ND（2 世） 34 分 56 秒

収録地点：ブラジル福島県人会会館

収録日：2012 年 3 月 10 日

話者の関係：IC と ID は県人会での知人どうし。ほぼ同じ年でともに Mogi das Cruzes 市出身。若い頃から深くつきあいがあったわけではないが、同じ小学校の出身で共通の知人等が話題に出てくる。談話 3、談話 4 と同じ部屋で録音したため、背後に若干の雑音が入っている。

■ ブラジルでの生き立ち

(0:00~)

ND：〇〇【NC の名前】さんは、
生まれは、1940…何年だっ
け？

NC：^{わだし}私 はね、44 年の 8 月。

ND：あー、そう。

NC：ですからねー、ちょうど終
戦 1 年前だ。

ND：あー、なるほど。んー。

NC：約ね【約 1 年前ね】。

ND：で、私が 40…、えー、45
年の 9 月だからー、(NC：あ
ー) その、ちょうど 1 年、
おー、あとですね。

NC：＊、終戦直後。ということはね。

ND：終戦、終戦直後。そうそう。で、生まれはどこ？

NC：生まれは、Mogi 《地名：モジ・ダス・クルーゼス（以下「モジ」）》。Cocuéra
《地名：コクエーラ（モジ市内の移住地）》。

ND：あ、そう。

NC：うん。Mogi 《モジ》 ＊ ＊Cocuéra 《コクエーラ》。

ND：じゃー、なるほど。で、私はあの一、えー、Pa…Paraguaçu Paulista 《地
名：パラグアス・パウリスタ》 つって、São Paulo 《サンパウロ》 から西、

【補足説明：モジ・ダス・クルーゼス】



NC・ND の生まれ育ったモジ・ダス・クルーゼス市はサンパウロから東に約 50km。人口約 39 万。日系人の多い街で、福島県出身者も比較的多い。写真は市の中心部。

談話 4

西へ、500 キロほど離れた、(NC : あー、***、***) んー、コーヒーの植民地だったんですよ。

NC : はー、はー、はー。

ND : で、そこで生まれてー、でー、^{じっ}10ヶ月のときに Mogi 《モジ》に家族が移住して、

NC : あー、そうですかー、はいはいはい。

ND : ええ。でー、あの、〇〇【人名 A】さんの、土地に、はい、入らせてもらったんですね。

NC : はー、はー、はー。〇〇【人名 A】さんね。はいはいはい。

ND : うん、〇キロ【キロは km のこと。具体的な場所なので伏せる】のね。で、ずーっと、あそこに4年間いて、でー、そのあと、Cocuéra 《コクエーラ》の〇キロ【具体的な場所なので伏せる】に、移ってきて、(NC : はい) で、^{にじゅっさい}20歳まで、(NC : はいはい) ^{にじゅっさい}ほぼ20歳まで、あそこで育ちました。いや、〇〇【NC の名前】さんは？ そうずっと、Cocuéra 《コクエーラ》で生まれて、ずっと、そだ、育ちも…

NC : うん、私はね、そうですね、生まれも育ちも Cocuéra 《コクエーラ》ということで。*****

ND : うーん。

NC : えー、結局は、まあね。あの一、小学校も、まあ、我々、同じ小学校だった。*****ね。

ND : そうですよ。

NC : でー、小学校4年と、で、それからは、やっぱり同じ経路でね、中学校も〇〇【ND の名前】さんと同じ、**、Mogi 《モジ》市まで、(ND : えー)、^{じてんしゃ}みんな自転車通ってましたよね。**ね。

ND : そうだね。自転車だったよね、あのころ。

NC : そうそう。

ND : んー。

NC : でー、高等学校、高等学校は、まあ、これは夜学になったんで、ちょうど、まあ、あの当時はね、まだ、みんな、あの、若いうちからいろいろと家の手伝^{てずだ}い、農業関係だから、(ND : あった*) やらざるをえないと、食べてくためにはね、(ND : そ、そうだよー、うん) そういう状態だったね。で、高等

学校、そして、いやそれからはね、大学、私は Mogi 《モジ》 からずっと、São Paulo 《サンパウロ》 まで、こう、毎晩通いましたからね。

ND：うわー、すごい。

NC：ちょっと、まあ、仕事の事情もあってね。家のほうはあんまり空けられないっていうこともあって（ND：んー、んー）で一、本来希望していた、まあ、ほんとは工科大学をね、目指していたんだけど、それはまあ断念して。

ND：ええ。

■ 仕事の話（2:15～）

NC：で、まあ、経済学部を、やって、で「そのついでに」つったら、あれなんですけれども、ま、会社経営がこう、終わらしてね、（ND：んー）で、それから、あの、〇〇【会社名（日本に本社のある会社）】に、まあ、入社したのが…

ND：ええ。

NC：1970…71 年だね。

ND：あー、そう。

NC：うん。で、その後^こずっとね、まあ 40 年間、あの一、その会社でね、お世話になったんですけれども。

ND：んー。

NC：で、途中でですね、あの、その一、本社そのものが、まあ、日本の〇〇【会社名】がアメリカの〇〇【会社名】に…

【バックで「そしたら、あと 30 分ぐらいしたらまだ来ますから」と調査者（白岩）の声】

ND：【調査者に答えて】はい。

NC【話を戻して】まあ、吸収合併、（NC：えー）されたのが、まあ、〇〇年【具体的な年は伏せる】だったんですね。

ND：あー、そう。

NC：で、その後^こずっと、まあ、〇〇【会社名】はそのままこちらに残って、（ND：んー）で一、日本の本社は、あの一、やっぱり社名も、こう、変更しましてね。あの、〇〇【会社名】という会社になったんですけれども、（ND：え

談話 4

え)我々はまあ、直接日本の本社とアメリカの本社と、直接の関係になって、(ND:ええ)で一、え一、〇〇年から、まあ、2010 年【NC 退職の年】までね、そのまま、ずっと続いて、(ND:ん一)で、そこで私も、もう、日本にね、最終的に、あの一、契約そのものっちゅうのは、わずか、まだあったんで、日本に移して、日本の〇〇【会社名】でそれを吸収すると。

ND:ん一、なるほど。

NC:まあ、管理面だけね。

ND:ん一。

NC:で、São Paulo《サンパウロ》はこれで閉鎖ということになって、ほいでまあ、退職と…(ND:ええ)いう形ですよ。

ND:ん一、なるほど。

NC:まあ、あつというまの 40 年だったんですけれども。

■ ブラジルでの生き立ち (3:40~)

ND:まあ、そうだね。振り返ってみるとね一、で、私は、そうね一、あの、まあ中学までは、え一、昼間で、高校は(NC:はいはい)やっぱ夜、夜でした。夜学でした。

NC:あ、*****よね。はいはいはいはい。

ND:ん一、それで当時は、あの一、Mogi《モジ》でも、大学っていうのまだなかったんで、(ND:はいはい)あの、まあ、外に出るしかないなと。で一、1 年 São Paulo《サンパウロ》で、あの一、(NC:**)よ、予科、うん、予科を勉強して、で、Campinas《地名:カンピーナス》の大学入ったんです。

NC:あ、はいはい、お一、それは、その、よかったですね一。

■ 仕事の話/どんなことばを使うか (4:20~)

ND:うん。Campinas《カンピーナス》で食品工学勉強して、そのあと、まあ、1 年ほど、あの、水産工場に勤めて、(NC:は一は一、は一は一)で、そこを蹴っ飛ばして、で一、次の年に、い一、74 年に〇〇【会社名(日本に本社のある商社)】に入社して、

NC:は、は一。*****ね。

ND：で、ええ。もうずっと今まで、いる、いるわけですね。

NC：は一、はいはい。

ND：で、まあ、あの一、商社っていうのは結局、あの、ことばが大事なんで、あの一、

NC：は一、は一、は一。

ND：ええ。当時、ことば、日本語しゃべれるのと、まあ、あの一、自分なりに英語も勉強してたんで、(ND：ん一) あの一、非常に、い一、役に立ちました。

NC：は一、はいはい。

ND：それとまた、あの一、食料部に入ったんで一、え一、勉強した、あの一、え一、食品工学にかい、関する、あの一、知識ですね。

NC：ん一、なるほど。はいはい。

ND：これも、うん、大いに役立ちましたね。ん一。

NC：は一、はい、はいはい。それはもう、ほんとよかったですね。

ND：それでまあ、結局一生「〇〇【会社名】に勤めた」という形になってましてね。{笑}

ND：ん一、なるほどね。まあ、でも、す、ごく少ないケースだね、こういう何十年、ん一、間^{かん}をね、ブラジルにおいてね、(ND：そうですね) ブラジルにおいて、この、【同じ会社で】一生を過ごすという (ND：ん一) ケースは、ほんと少ないと思いますよ。

ND：まあ、〇〇【NC の名前】さんも、あの一、同じ会社に、長いこと勤められたと一緒にですね一、(ND：ん一) やっぱ昔の考え方でいうと、あんまりその、転々と、あの一、会社を変えるっていうあれは、あんまりなかったですよ。

NC：あ、うん、そうですね。(ND：ん一) あんまり、それはちょっと…

ND：最近でこそ、きゅ、給料、あの一、できるだけ多くというあの、コンセプトのもとに、(NC：は一は一) 会社転々と動き回るというのが、まあ、多いわけですけど、(NC：そう**ね) 我々の時代はとにかく、一生懸命、あの、勉強して一生懸命仕事しようと、(NC：あ一、あ一) する感じが強かったんじゃないでしょうか。

NC：そ、そうですね。

談話 4

ND：んー。

NC：たぶんまあ、そういう傾向のほうが、やっぱり、多がったような感じがしますね。

ND：そうだよね。

NC：うん。

■ ブラジルでの生き立ち／日本語学習の話／日本のテレビや本の話（6:15～）

ND：で、日本語は、どこで、どこで勉強されたのですか？

NC：日本語つつつても、これはまたね、あの、先ほどの〇〇【ND の名前】さんのお話じゃないけども、うま、生まれたときから日本語だったもんで。

ND：うん、そうだよね。

NC：ポルトガル語なんか全然わがらなかったですよ。

ND：そうだよねー。

NC：で、小学校入ってもポルトガル語はわがらない。（ND：{笑}）で一、中学校入っても一応相手が言うことはわかるけれども議論はできないと。

ND：んー。

NC：で、それでまあ、これはもう、ブラジル人と議論すると、いつも負けちゃうから、「悔しいなー」と思ってたけども、ことばが出てこないのね。

ND：んー。

NC：で、やっぱりー、高等学校2年か3年ぐらいになって、まあ、なんとかね、こう、議論、それでもまた、非常にこう、あの、口下手というかね、（ND：んー）あの、うまい具合に、この一、説明、あるいはまあ、ことばのね、あの、適した、^{てきせず}適切なことばが、ながなが、こうは、うまく出てこないと（ND：んー）という問題と、もちろん文章も下手ということで、で一、まあ、日本学校はね、子どものころから、ずっと、まあ、7年間、**^{きゅう}9年ぐらいかな、通わしていただいて、で一、たまたま、まあ、そんな環境のなかだったんで、「読むこと」「聞くこと」っちゅうのは全部やっぱり、漫画とか本はみんな日本語だった**ね【日本から取り寄せた漫画などが日系社会内でも流通していた】。

ND：そうだよねー。（ND：ええ）んー。だ、そのへんがねー、あの、私らの時代つつーのは、日本語覚えるのは、非常に、あのー、

NC : 恵まれてた。

ND : 恵まれてたんですけど、逆に、今度はポルトガル語の本も、あの、漫画もまったく、あのー、無関係だったんだよね。それで、その、ポルトガル語を、お、覚える、あれにちょっと時間かかったという、あのー、ことですよ。

NC : はーはー、はいはい。だからまあ、高等学校、そうですね。高等学校になると、やっぱり、夜学だったんで、まあ、日本学校も、そこでね、やむをえず、あの、やめて、中断してね。

ND : うん。

NC : で、日本学校は、たまたまね、あのー、まあ、今でも私は非常にこう、恩に感じてるんですけども、あの、〇〇【人名 B】先生ね、こちらの***の、(ND : ええ) **じゃなかった。***の、あのー、〇〇【人名 B】先生の教え子だったんですよ。

ND : あー、そうですか。

NC : ちょうど^{しち}7年ぐらいねー、あの、São Paulo 《サンパウロ》から当時、かよ、通われてたんですけども、(ND : ふーん) たいへん苦勞、苦勞されたと思うんですけどもね、(ND : んー) まあ、そのおかげで、そ、それからまた、あの、ずっと、大学終わって入社して、1 年から、あの、1 年目、2 年目からね、ちょっと東京本社のほうに、2 年半近く、研修も、(ND : あー、そうですか) さしていただいたんで。

ND : んー、なるほど。

■ 仕事の話／どんなことばを使うか (8:30～)

NC : で、まあ、そんな関係で、その、日本からの、いわゆる駐在員のみなさんとのコンタクトがね、(ND : ええ) もうほとんど、もう日^{にじじょう}常内だったんで。

ND : ええ。

NC : だからまあ、あの、たまたま、そういう意味ではね、まあ、日本語使う機会が多かったのと、それから、一時まあ、外野関係【営業の仕事】を、ずっとね、担当させてもらってたんで、

ND : ええ。

談話 4

NC : で、【営業先に応じて】1 世部隊と 2 世部隊と、あるいはブラジル人部隊、
こう、分けてたんですね。(ND : なるほど) あ、1 世 * * *、* * * には、
これはもう、すべて交渉は全部日本語で、(ND : んー) テキストも全部日本
語で。

ND : うん、なるほど。

NC : で一、ポルトガル語はポルトガル語で、これは 2 世とブラジル人と、(ND :
んー) まあ両方ね。こういう形で、こう、あ、まあ、そういう仕事の必
要の、う、まあ、な、ためにね、あ、日本語というものは使ってたんで、
(ND : ええ) * * * でね、まあ、なんとかね、(ND : んー) 「日本語は忘れ
ずに」いうごどでね。なんですけどもね。

ND : まあ、忘れる、忘れる、忘れるどころかー、あ、ど、どんどんずっと、
こう、あの一、上達していったんでしょね。

NC : あー、それ、まあ、どっちかっつーと、勉強するほうじゃないからね、ま
あ、間に合わせでやっちゃったのがちょっと、あれなんだけれどもね、で
一、たまたま、まあ、〇〇年になると今度、あ、アメリカの会社んなっち
やったんで、

ND : ええ。

NC : で一、昔ちょうど、その、東京でいろいろと研修していたころに、その寮
にね、東南アジアからいろんな研修生が来てました。

ND : あー。

NC : で、これはまあ、あの一、台湾のほう、それから、台湾、韓国、インドネ
シア、それから、フィリピン、タイと。(ND : へー) で、そうすると、この
みなさんとの会話はね、結局はポル、あ、英語 * 通じないんです * * *

ND : そうでしょうね。

NC : で、たまたま、そのときに、まあ、あ、いわゆるブローキンイングリッ
シュ【くだけた英語】だけれども、(ND : ええ) 覚えたのが、まあ、あ、
結局は、まあ、アメリカの会社に、こう、なった【合併した】ときに、や
っぱり、まあ、間に合わせの英語だったけれども、非常にまあ、ある意味
じゃあね、(ND : んー、んー) 役に立ったと。だから、「そんなとき * *、も
っと勉強しておきゃよかったかなー」と思うけれども、(ND : んー、んー)
まあ、「時はすでに遅し」ということで。[笑] そんなもんで。

■ ブラジルでの生い立ち／どんなことばを使うか (10:25～)

ND : [笑] まあねー、あの、いろいろあの、まあ振り返ってみれば、いろいろ、こう、あのー、あれできるけど、でも、私の場合、語学が好きだったんですね。

NC : んー、なるほどね。

ND : ですから、中学、中学2年から、あのー、ありましたよね。英語の勉強ね。

NC : ありましたね。2、はい、2年からずっと、高等学校までね。はい、***ね。

ND : うん、そう。でー、あれからずっとね、あの、じぶ、今、あのー、学校もさることながら、あの、自分で独学的な、あの、勉強もしてたし、

NC : ほーほー、ほーほー、はいはい。

ND : それから、高校に入ってから、あのー、英語の好きなやつと、こう、毎日、(NC : なるほど) 2、^{にさんじっぷん}20～30分 (NC : はー、はー) あの、会話やってたんですね。(NC : あ、なる**) そんなこともあって、まあ、結局その、スポーキングリッシュ【話しことばの英語】も、あの、それなりに、あの、上達してった。(NC : んー) で、大学に入ってから、あの、教科書がポル語【ポルトガル語】で書かれた教科書、あの、1冊もないんですよ。

NC : んー、なるほどね。

ND : そのころ、その、食品工学っていうのは、(NC : はー、はー、***) 非常に新しい分野で、あの、全部、9割がた英語で、(NC : はー、なるほどね) あと残り、スペイン語だったんですね。(NC : はーはー、はーはー) だから、「これはちょっといかんな」と思ってまた、英語の学校に通い始めて、(NC : んーんーんー) で、まあ、2年間、2年半、あの、英語の勉強しましたけど。

NC : はーはー、おー、なるほどね。

■ 仕事の話／どんなことばを使うか (11:40～)

ND : それとまあ、あとから気がついたけど、えー、まあ商社関係って、あの、国際貿易だから、まあ、契約書から始まって、みんなあの、英語ですよ。

(NC : んー、んー) それから、まあ、あのー、えー、商談をするにも、(NC : *** ***) あの、が、外国人ばかりなんで、あのー、ポル語でや

談話 4

れるのは、まあ、ブラジルの国内で、えー、しゃべることで、外国人
というのは、もう、全部英語ばかりだったんですね。

NC：は一、は一、は一。

ND：ですから、そういう意味でも、まあ、日本語、英語、ポル語っていうのは、
もうこの3ヶ国語は、もう始終使っていましたんで。

NC：んー、なるほどね。は一は一。

ND：んー、けっこう、けっこう楽しい、(NC：は一) あの一、えー、仕事柄でし
たね。ええ。

NC：はい、はいはい。まあ非常に、よ、いい、まあ、ある意味じゃね、非常に
こう、まあ、なんというかね、あの一、そういった、語学のほうの、まあ、
勉強ということと、仕事も…が中心だけれども、

ND：ええ。

NC：こう、恵まれた条件だね。それはね、***、んー。

ND：それ、ちょうど、ちょうどマッチしてたんですよ。うん。

NC：そうだね。***。

ND：あとまあ、外国もいろんなところに行かしてもらったし、えー、アメリカ、
ヨーロッパ、まあ、えー、日本はもちろん、もう、じゅ、15 回も行きまし
たけど。(NC：あー、はいはい) んー、あとはまあ、東南アジア、中国ね。
(NC：あー、はいはいはい) まあ、ひととおり、あの、回りました、回
らしてもらいましたよ。んー。

NC：は一、は一、は一。すべて、ビジネスで、こう。

ND：そう。

NC：あ、なるほどね。

ND：うん。まあ、これだけ、会社に、こう、あの一、会社のお金で世界中回ら
してもらったケースも、

NC：まあ、数少ないんじゃない？ [笑]

ND：[笑] 少ないでしょうね。(NC：****) うーん、そういう意味でも、お
一、まあ、恵まれてましたよね。

■ ブラジルでの生い立ち／日本語学習の話／ポルトガル語学習の話 (13:20～)

NC：は一は一。日本語は、あの一、えーと、小学校のころは〇〇【人名 C】先生？

…のところで勉強されたの？

【ここからしばらく人名部分およびそれと重なる発話を消去したので、音声は途切れ途切れになる】

ND : えーとねー、あのねー、

NC: あの、〇〇【人名D】さんの隣、隣だったかなー、〇〇【人名C】先生がおられたのね。

ND: えー、***ね、ううん、〇〇【人名C】さんじゃなくてね、あそこ、あのころ、〇〇【人名E】先生っていう***

NC : ○○【人名E】先生… あー、***、私は面識ないなー。

ND：ええ。あの一、あの一、奥さんのほうが、えー、私らの、えー、先生で、(NC：はーはー、はーはー) あと、あの一、旦那のほうは、自転車で Mogi 《モジ》に通って、Mogi 《モジ》で教えてたの、教えられてたんですよ。

NC : あー、Mogi 《モジ》 で教えてたわけね。

ND : はい。

NC : そう。

ND：で、えー、〇〇【人名 E】先生が、たしか、あれ、Mogi《モジ》に移られたあと、今度は〇〇【人名 F】先生つって、

NC: あ、〇〇【人名 F】さん。野球の、なんかね、コーチやっておられましたね。

ND : うん。そうそうそう。

NC: あ、あー、そうですか。はい
はいはい。

ND：うん、野球のコーチやってた
 ○○【人名 F】さんも、何年
 かねー、かよ、んー、通って
 いたんでした。

NC：あー、**の先生だよ。怒るわ、怒るわ、**

【補足説明：日系社会と野球】

Restaurante MUSSASHI
Rodízio FUJI
刺身10貫 バーゲン中
寿司、その他、80品から
選べる放題、食べ放題
R\$ 44,99 por **R\$ 31,49**
R. dos Estudantes, 28 - Liberdade
São Paulo - SP - (11) 3203-0900

Nike

ANO XV – Nº 3579

SÃO PA

[illegible]

ブラジルといえばサッカーだが、日系社会では野球も人気である。写真は高校野球について報じる日本語紙「ニッケイ新聞」の記事（2012.8.7）。

談話 4

ND：ええ。

NC：ねえ。

ND：と、このふたりの、ふたかたの先生でしたね。

NC：んー、あー、そうですか。

ND：で、8年、かれこれ8年ぐらい勉強しましたよ。

NC：は一は一、は一は一。じゃあ、いい、あれだね、勉強になったね。

ND：んー。

NC：あ、そうですか。それはそれは。こう、非常に、こうね、あの一、あの当時、確かにね、さっきのお話じゃないけれども、我々日系2世、特にあの、いなか育ちは、要するに家庭での会話っちゅうの、すべて日本語だったんだよ。(ND：そうだね) だから、ポルトガル語のほう、あんまりこう、うまぐね、できなかったね。対応うまぐできない場合が多かったんだよね。

ND：そうですね。

NC：で、私もやっぱりね、大学に入ってからだね。ほとんど、まあ、あの、一般ブラジル人との、議論したり、あるいはまあ、(ND：んー) あの一、屁理屈も並べてね、いえるようになったのは、(ND：うん) 高等学校まではどうしてもやっぱりね、あの一、頭んなかで思ってるような、(ND：うん) あー、表現つつーのあんまりでぎながった。(ND：ええ) 日本語ではできたんだよね、あの一、変な話***。だけど、ポルトガル語では出てこないと(ND：そうだよ、ね、んー) ということで、苦労したほうだけれどもね。

■ 今の日本社会の悪いところ (15:15～)

ND：えー、〇〇さん【NC の名前】の見解がら、見解では、えー、今の日本はどういうふうに見てらっしゃいますか？

NC：んー、ほんとに難しいところですねー、これは。なかなかねー、まあ、今の日本というのはやっぱり、その、ひとむかしと、だいぶ変わっちゃってね、いわゆる、その一、家庭というものに対するね、絆っていうものが、ものすごく薄れちゃってるわけよ、ほんとね。

ND：そうだね、ええ。

NC：で、お年寄りはお年寄り。(ND：ええ) 世界になっちゃって。(ND：はい) 若い者は若い者と。(ND：んー) そして、若い者はお年寄りの面倒は見ない

とか、そういうあれがね、非常に、こう、深刻になってきてるような、気がします。しますね。それと、もうひとつは、要するに、横のつながりというのがね、非常に、こう、あー、なんて言いますかね、薄くなった^ゆっていいのかね、お粗末だ^ゆっていいのかね、これが難しいですね。

ND：うん、んー、同感、同感。ん、私も、んー。

NC：特に、***、都会はね。

ND：都会はね、もう、んー。

NC：ねー、だから関係ないんだよね。隣の人は、全然。

ND：そう。ええ。

NC：これは、やっぱり、ちょっとー、まあ、São Paulo 《サンパウロ》でも、そういうあれが、あるんだけど、（ND：ええ）ちょっと、あまりにも、こう、なんていうかね、「極端な変化が起こってんじゃないかな」とね、思いますね。社会の中でね。

ND：そうねー。うん。いやブラジルでもそういう傾向は見られるんですけどー、ねー。

NC：見られるね、はい。

ND：ま、いなかと、まあ、いなか^ゆってても、いなか町と都会とでは、やっぱり相当違いますよね。

NC：違います、はい。

ND：うん、だ、都会の生活は、まあ、日本と、まあ、やや似てるとはいうものの、まだ家族との絆は、こっちのほうはまだ、まだ、あの、えー、つながってんなと（NC：なるほどねー、は一、は一は一）いうふうに感じますよね。

NC：は一、は一は一。まあ、それはそうですね。

ND：うん。

NC：そういう面じゃ確かに同感ですね。

ND：うん。

NC：はい、はいはい。

ND：で、ちょっとね、やっぱり日本の場合はその、なんていうのかね、あまりにも、こう、戦後ね、ともかくもう、一生懸命やって生きの…のびなきやいけないという社会になって、まあ、そういう、その、なんていいますか

談話 4

ね、あの、40…えー、40…そうだね、あのころだから、まあ、45 年、まあ戦後だね、生まれたみなさんが結局は今の日本というものの作り上げたような形になっちゃってますよね。

ND：そうですね。

NC：あの一、もちろんまあ、終戦当時もう^{はたち}二十歳とかね、成人なってるみなさんもふくめてなんだけれども、(ND：ええ) 結局はまあ、日本の経済を立て直したというのは、まあ終戦後、^{せんきゅうひやくろぐじゅうねん}1960 年、^{ろぐじゅうご}65 年ごろだからね、完全にこう (ND：うん、そう、そうですね) まあ、世界的に見てね、認められてきたのは。でー、その期間にね、一生懸命努力して、一生懸命仕事して、お金も貯めて、生活水準もよくし…してはきたんですけども、その後ね、70 年代以降に生まれたみなさんとなると、(ND：うん) だんだんとね、やっぱりその、教育の、いわゆる、なんちゅうんかね。方向性っちゅうのが、だいぶ変わってきちゃったね。これは、非常にまあ、アメリカのあれが、***、影響したんだと思うんですけども、いいところはいいんだけど、やっぱり、こう、個人主義っちゅう、あれがね、だんだん*****

ND：くろ、苦勞を知らない時代になっちゃったんですね。

NC：【苦勞を】しないで、で、自己中心っちゅうあれが、だんだんだんだん、こう、芽生えてきて。

ND：うん、ええ、ええ。

NC：これはまあ、まあ、世界的な傾向だと思うんですけど、(ND：えー) 日本は、それはやっぱり、かなり見られるね。そういう意味では。

ND：わがまま、わがまま行為がね、ず、ずいぶんと、こう、つ、つ、つ、強くなってきましたよね。

NC：かなりこう、強くなってきたね。まあね、非常に、まあ、これからもね、まあ、おそらくね、あの、いろんな問題はあろうと思うけれども、それなりに、やっぱり日本の、日本というのは、あの一、一生懸命みんなが努力してね、そして、団結をして、難しい状況というもの、やっぱり、「いかにして、こう、延びー、あの、生き延びていくか」という、その、ひとつの、昔からの国民性があるから、(ND：んー) これからはねー、おそらく、まあ、いろんな問題、社会的な問題が起こるけれども、おそらくそれはね、何ら

かの形で、やっぱり、こう、んー、こう、乗り越えていくというようなことをやっぱり、期待で、できるんじゃないかなと思いますけれどね、そういう意味じゃね。

ND：えー、あと一、いまひとつ、言わしてもらおうと、やっぱり日本はもう世界とちょっとかけ離れた世界になっちまって、(NC：そうそうそう。ねー)でー、政治も含めてね、(NC：はいはい、はいはい)やはりもうちょっと世界を見ながら、あの一、歩んでいかないと、なんか、内部で、内部だけで論争してるような感じがしてならないんですけども、どう思われます？

NC：んー、おっしゃられるとおりですね。そりゃあ、そう思いますね。

ND：うん。で、まあ、け、経済的にも、まあ、世界をリードする、あの、時代もあったわけで、(NC：はいはい)で、それがあの一、いつの間にか、えー、世界から、こう、まあ、置いてきぼりじゃないじゃないけど、あの、中国、韓国、ねー、ヨーロッパ勢に、こう、抜かれてしまったという、あの一、えー、分野も、あの、あるわけで、やはり、(NC：はいはい)まだまだ技術力は、あの、あるわけなんで、(NC：はいはい)あの、また、えー、このへんをふくめて、あの、復興してもらいたいと思いますね。

NC：うん、そう、そうですね。

ND：ええ。

NC：やっぱりあの一、なんていいですかねー、この一、まあ、経済面でやっぱりねー、発展するということは、当然これは、あの、国内だけの問題じゃなくして、やっぱり、世界を股にかけた需要と供給のバランスのなかで、こう、国が生きていくわけだから、(ND：ええ)やっぱり、自分だけの利益を考えたんじゃ、これは、あの、そのときは儲かっても、もう、中期的、長期的には必ずおかしい状態になっちゃうから、

ND：そうだよねー。

NC：やっぱり相手のことを考えての、nego《取引》…とかね、(ND：ええ、ええ)取引、そしてまた、交流というものは、これは絶対やっぱり必要だと思いますよね。

■ ブラジル社会のよいところ・悪いところ (21:10～)

ND：うん。あと、我々が住んでるブラジルのいいところ、悪いところについてです

談話 4

けども、

NC：{舌打ち} はい。

ND：まあ、いいところといえば、まあ、国は広いし、*****の豊富な、まあ非常に、こう、あの一、地震も、えー、何もない、あの、自然に恵まれた国であること。ねー。

NC：はい、そうですね。はい。

ND：あと一、悪いところっていうと、まあ、えー、やっぱり、汚職問題でしょうかね、いちばん悪いのはね。

NC：はいはいはい。

ND：あの、うん、あの、治安、治安も昔に比べると非常に悪くなってますし、(NC：はいはいはい) 住みにくくなってますよね。

NC：そうですね。

ND：うん。だからまあ、自然には恵まれてるけど、えー、どうももうちょっと、せい、政治がうまくこう、リードしてもらわんと、今後、えー、まあ、ワールドカップだ、あの一、オリ、オリンピックだって、(NC：はいはい) あの一、明るい、えー、じ、行事が待ってるんですけども、(NC：はいはい) 「もうちょっと、しっかりした政治をやってもらいたいね」と、もうねー。
{笑}

NC：あー、同感ですね、はい、はいはい。

ND：こ、こういう、感じでいますけど。

NC：はい、そうですね。

ND：ええ。

NC：あまりこの、汚職という問題は、これはもう、非常に深刻な問題ですね。

ND：ええ。

NC：これはやっぱり、あの一、早い話がね、トップからずっと下まで、こう、根強く、こう張っちゃってるというところに問題があって、(ND：ですよ
一) なかなかこれをね、あの、ひ、ひっくり返すというのは ^{むつか} 難しいね。

ND：わ、悪いお手本が、悪いお手本が上のほうから来てるというのが問題なんですね。

NC：*****ね。

ND：ええ。

■ 東日本大震災の話 (24:25～)

ND : んー、あと、今いちばん話題になってる、あの、東日本大震災のことなんですけど、

NC : はい。

ND : これはまあ、あの、起きた当日から、もう生中継で世界中に放映された、あの、出来事なんで、もう、えー、NHK はもう、ほとんど毎日見てますし、まあ、日本に、いやこの、えー、し、震災にあわれた被災者の方たちの、えー、思いを、あれするともう、ほんと、えー、痛ましくて涙が出そうな感じですよ。

NC : はいはい。はいはい。そうですね。

ND : うん。

NC : あれほどやっぱりね、*** いうもの、なんていいですかね、あの、ほんとの、これはもう、いわゆるその、英語でいうカタストロフ【破滅】だね。ほんとの、これはね。(ND : うん) ちょっと、想定外といわれりや、たしかに想定外なんですけども、こういうことが現実に関起こったということはもう、これは恐いです。(ND : ですよー、うん) 今後の問題を、ね、見てもね。

ND : ま、地震、津波だ…のみならず、こんな、げ、原発事故っていうのが、あの、相次いでますんで、(NC : はいはい) このへんが、さらに恐い状態ですよ。

NC : そうですね。

■ 東日本大震災の話／日本にいる親戚の話 (25:40～)

ND : うん。〇〇【NC の名前】さんは福島にまだ親戚はいるんですか？

NC : いや、親戚ね、親戚はね、あの一、連絡は*** ないんですけども、んー、いわき市のほうには、あの一、いわゆる私のね、えー、父の、お、まあ甥 (ND : 甥。うん) になる、それ、その程度のレベルの、(ND : うん、うん) まあ、家族関係っていうのね、まあ、おるんですけど、ほとんどもう、連絡がないんですけどね、(ND : あー、なるほどね) ただまあ、地域的に離れてるんで、(ND : ええ) これと言った問題は、あの、なかったというふうに思いますけどね、(ND : *) これはあの一、逆に、ブラジルにおる親戚か

らの話の、あの、…からでは、ではね、(ND：ええ) 知ってるかぎりではそういうことらしいですね。＊＊「あんまり問題なかったんで」と、(ND：うーん) という連絡あったんで。

ND：うーん。いや、うちもね、あの一、うちの実家を継いでるっていうのがね、あの一、親父の、あの、甥なんですよ。(NC：は一、なるほどね、はいはい) うん、わた、今ちょうど私のいここにあたるんですけどね、(NC：は一は一、は一は一) で、親父が、親父が後継ぎの代だったんだけど、あの、私のおじいさんが、えー、うちの親父、うちが、親父が、あの一、えー、ばちっこ《末っ子》で、(NC：あー) えー、〇〇【NDの父親の^{なな}名前】っていうんですね、^{なな}7人目の、(NC：ほおほお) ^{なな}7人目の、(NC：はいはいはい) あの、子どもだったんで、〇〇【NDの父親の^{なな}名前】と。でー、兄貴が、これまた〇〇【NDの叔父の^{なな}名前】という名前で、(NC：〇〇【ND：の叔父の^{なな}名前】。あー、はいはい) で、「〇〇【ND：の父親】と〇〇【ND：の叔父】はブラジル行け」ということで、1930年にあの、ブラジルに、えー、来たわけで (NC：は一、はいはい) でー、残った5人の、あの、兄弟っていうのは、みんな戦死してるわけですね、そのあと。

NC：は一、そうですか、は一、それはそれは。

ND：ええ。ですから、その、残ったのはいわゆる、えー、親父の甥が、(NC：は一は一、うん、は一は一、はいはいはい) 今、うん、後継いでるわけですよ。で、これがあの、〇〇【いわき市内の地名】、

NC：あー、なるほどね。は一は一は一。

ND：うん。あそこにまだ、あの一、いるわけで。えー、たぶんね、あの一、発電所が、げん、ん、原発発電所から、えー、^{さんじつ}30キロか35キロか、そんなところなんですよ。

NC：うーん、なるほどね。は一は一は一は一。

ND：で、まあ、かろうじて、えー、救われたという＊な、あの、ところなんですけど、

NC：は一は一は一。

ND：まあ、事故と、えー、直後ね、まあ、電話してみたら、まあ、あの一「なんとも、ん、なかった」と。(NC：は、はいはい) ん、ん、「地震の影響もなかったし、(NC：うんうん) えー、まあ、あの、そのまま、えー、生きて

談話 4

る」というような、あの、ことでしたね。

NC：なるほど***。

ND：ええ。

NC：はい、はいはいはい。で、まあ、まだ無事でよかったですね。そういう意味じゃね。

ND：よかったですよね、ほんと。うん。

NC：それは、大変なね、[間] こういう天災っちゃうのは、これほんと、どうしようもないよね。

ND：うん、どうしようもないっすねー。

NC：まあ、もちろん原発はまた別問題としてね、(ND：うん) やっぱまあ、原発というのは、もうとにかく早急に (ND：まあ、**) これは代替エネルギーに走らないといげないという気がしますね。あの一、

ND：まあねー、願わくばそういうことなんですけど、やっぱ、げん、原発に代行するエネルギーの、あの一、^{げん}源っていうのは、ちょっと、んー、見つからないっしょ。

NC：うん、まあ、そうですね。そうですね。

ND：たいよ、うん、太陽光とか、えー、風力とかあるけど、まあブラジルは、あの一、す、ほとんど水力…

NC：水力でやってますからね。

ND：ねえ。あの一、水が豊富だから水力でできるけど、あの一、世界中見ても水力で補ってる国ってほとんどないすよね。やっぱり原子力、もう使ってるから、で、まあ、えー、汚染の少ない、まあ、…といわれるエネルギーなんですけど、まあ、こと一回事故が起きると、たいへんな問題んなるんだけどね、

NC：そうそうそうそう、そうそう。

ND：まあ、もっと、もっと安全な仕組みでやれば、まあ原子力発電所も、これからまだ、えー、ずっと使っていかなくちやいけないんじゃないかなという気がしますけどね。

NC：うん、まあそうでしょうね。その、代替エネルギーというものが、実際にね、(ND：ええ) 日常生活でこう、使えるようになればね、あるいはまあ、一般工業ね、生産分野、(ND：ええ) そうすりゃあもう、完全にこう、あの、

撤廃できるけれども、それまではやっぱりやむをえないでしょうね。(ND : うん) だから、まあ、短期間にはこれはちょっと、解決はおそらくね、不可能でしょうけれども、ただ原発のいちばんの問題というのは、あの一、これはあの、例えばまあ津波の問題の場合はですね、高台作りやあ、これは解決^{かいげつ}することなんですけれども、(ND : ええ) ただし、地震の災害っちゃうのは高台も低いとも関係ない* * *。(ND : そうですね) そのどぎにこういう問題が起こった場合はどうなるかと、(ND : うん) ということと、それからもうひとつ、もっと危険なのはですね、これはまあ、今の時代だから、あ一、この一、たまたまね、何らかの形で戦争が勃発するとかっていうことは、可能性は低いかもわがなんいんですけれども、(ND : うん) これがもし、そういう形に、何らかの形で戦争がなんか起こった場合は、(ND : うん) これは…

【ほかの協力者が「それじゃあ、お先に失礼します」と帰る声。ここから、バックの声が大きくなり、聞き取りにくくなる】

ND : 【先に帰る協力者に】 はいはい、どうも。

NC : 【先に帰る協力者に】 どうもどうも、ご苦労さまでした。【話を戻して】 起こった場合ですね、これは、あの一、原発のところに爆弾を落っこって【「落ちて」を表す福島方言】それを、いわゆるその、修繕したりするということ、これはもう不可能になってしまう* * * * *

ND : そうですね。

NC : というのは、そこで* * * * 時間もないと思うんです。ボンボン来ちゃうでしょ、次々。

ND : うん、うん、そうよね。

NC : そうなったときにはね、原発があったために、これまた破滅状態、(ND : うん、そうですね) …いう、その、いわゆる極端なことをいうとね、【バックで人名の名前を言う声があったので音声を消去した】そういうリスクがこれ、あると思うんです。だから、できるだけ早い期間に、これは「変えなきゃいかん」いうのが、(ND : うん) まあ、私の、まあ、持論だけれども、(ND : うん) そ、そう思いますね。

【背後で調査者の声が聞こえる】

ND : ええ。そうですか。あと一、〇〇【NC の名前】さんも、

談話 4

【他の協力者から「じゃあ、帰りますから」と声をかけられる】

ND：【先に帰る協力者に】あ、どうも。

NC：【先に帰る協力者に】あ、どうも、ご苦労さんでした。

【バックで人名の名前を言う声があったので音声を消去した】

■ 仕事の話／今後の生活について (31:50～)

ND：【話を戻して】〇〇【NC の名前】さんも、もう、もう定年ですね。

NC：うん、去年からね、定年 * * * * *

ND：ええ。で、これからの生活っていうのは、どういう、どういう考えでいらっしやんですか？

NC：そうね。^{とぐ}特にどうっていうあれではないんですけども、まあ、ぼやっとしておるわけにも、いけないんで、(ND：んー) まあ、なんとかね、食べていかなきゃいけない問題も当然あるけれども、まあ、なんらかの形でね、少しでもこう、役に立てばと、(ND：うん) …いうことも、まあ、あの、考えてはおるんですけどもね。(ND：うん) ただまあ、どういう形で、じゃあ貢献できるかっちゅう問題は、いろいろあるんですけども、(ND：ええ) やっぱりね。

ND：ですか。まあ、私も、会社は、いちおう 5 年前に、て、定年に、んー、させられたんですけどねー、(NC：は一は一) あの、会社の方針として、^{ろくじっさい}60 歳 になったら、あの、いったん、あの、解雇されるんですね。

NC：あ、なるほどね。はいはい。

ND：で、もしよかったら、まあ、あとで、また顧問として、あの一、雇われると、(NC：は一は一) …いう形で、あの一、ここんところ、まだ来てるわけですね。

NC：はいはいはい。

ND：で一、まあ、今、週に 3 回、まあ出社ということ。

NC：あ、なるほどね、はいはい。

ND：あとはまあ、あの、自由な時間もあるんですけど、まあ、そのほかに、まだ、あの、ちょっと、いろんな声がかかって、あの一、

NC：は一は一は一、あ一、けっこうですね。はいはい。

ND：え一、「こういう仕事やってもらえんか」とかいうのがありまして、(NC：

はい) まあ、当分まだ、あの一、仕事はなくなるようなことは、なさそうなんですよ。

NC：うん、うん、それはそれは。それは大いに。

ND：んで一、好きな、あの一、ゴルフとかね、(NC：はいはい) えー、釣りとか、もっと積極的にやりたいなとは思いつつ、(NC：はいはいはい) まだそこまです、あの、いってないのが実態で。

NC：あー、なるほどね。

ND：ええ。

NC：まあ、それはでも、大変ね、あの、いいことだと思いますしね。

ND：まあ、やることあるだけね、うん、そうそうそう。ええ。

NC：大いに元気なうちにね、やっぱり、活躍されるっっちゃうことが、やっぱり、***ですね。

ND：あとまあ、好きな旅行もね、もっとやりたいけど、まあ、なんか、あの、二の次んなってましたね。{笑}

NC：うん。まあ、それはそれなりにね、(ND：うん) やっぱり、忙しいということもあるわけですから、(ND：ええ) たいへんね、あの、けっこうな、あの、あれだと思いますね。

ND：うん。

NC：まあ大いにね、やっぱり…

ND：まあ、体のね、

NC：体をね、

ND：あの、うん、あの、元気なうちは、(NC：はいはい) うん。

NC：健康には、ご健康には、十分にこう、

ND：うん。

NC：ご留意されて、やっぱり、こう一日一日を、こう、楽しむね、やっぱり、***ね、こう、生きてくというのが、やっぱりね。

ND：できるだけね、楽しく、うん、そうだね。

NC：****、あんまり、ね。

ND：もう、あの、あの、つまらない人生を送ってもしようがないからね。もうあと、あの、何年あるかわかんないからね。

NC：お迎えは、神様にお任せしとかなないといかんからね。{笑}

談話 4

ND : そうそうそう。まあ、5 年、10 年、20 年かわからんけど、(NC : はいはい)
でも、やっぱり元気なうちにね、(NC : そう **) あの一、できるだけ、す、
好きなこと、あの、や、やってみたいと思ってますけど *。うん。

NC : まあ、大いに、あの一、がんばってちょうだい。

ND : ええ。

NC : んー。

ND : ですね。どうも、ありがとうございます…

NC : い、いいえ、どうも、こちらこそ、あのほんとに、ありがとうございますし
た。